

1960年代前半の高島亀太郎（下）

—政治面—

川 東 淨 弘

目 次

はじめに

第1章 1961年

第2章 1962年

第3章 1963年

第4章 1964年

第5章 1965年

1 はじめに

前稿¹⁾で、1960年代前半（1961～65年）の亀太郎の家業面について考察しました。洋家具会社として再出発した木工会社（1960年8月）の経営は順調でした。

さて、本稿では、1960年代前半（1961～65年）の亀太郎の政治面についてみます。亀太郎、78歳から82歳にかけての時期です。中央政治は「60年安保闘争」という激的な「政治の季節」が終わり、池田勇人が政権を担当し（1960年7月19日～64年11月9日）、所得倍増・高度経済成長政策の「経済の季節」となっています。

しかし、愛媛県下の政界は、相変わらず、自民内部の抗争が続きます。特に、1963年（昭和38）の知事選挙では、自民党が分裂し、激しい選挙戦（久

1) 拙稿「1960年代前半の高島亀太郎—家業面—」（「松山大学論集」第14巻第1号，2002年4月）。

松定武対平田陽一郎)が闘われています。

亀太郎は高齢ですが、自民党宇和島部会の支部長を1959年8月以来64年3月まで続け、各種選挙に対応しています。

第1章 1961年

1961年(昭和36)、亀太郎78歳の年です。本年は選挙もなく、政治関係の記事はほとんどなく、自民党宇和島部会の支部長としての記事が若干見られる程度です。8月17日「自民党県支部から出張の県政懇談会に天神小学校講堂へ行き、帰県巡回中の堀本大蔵政務次官、増原参議院議員に会った」、8月18日「午後四時中川市長国連総会出席。外遊の壮行会に公会堂へ行き、祝辞を述べた」等。堀本(宜実)は56年に愛媛選挙区から当選した参議院議員、増原(恵吉)は59年に同区から当選した参議院議員です。中川(千代治)は59年から宇和島市長です。

愛媛県政の方に目を向けますと、前年1960年の6月、自民党の県議団は主流派の白石春樹らの県議会自民党(24名)と非主流派の井部栄治らの自民党同志会(14名)に分裂し、12月には現議長の森永富茂の外に新議長として桐野忠兵衛が選出され、議長2人という醜態が演じられていました。1961年に入り、この珍無類の2人議長体制に対し、調停がなされ、2月21日の県会で、森永の辞任、桐野の選出がなされ、2人議長騒動に終止符が打たれています²⁾。

しかし、その後も自民両派の対立は続きます。主流派の県会自民党側は2年後の知事選に向け、4月に久松県政推進議員連盟を結成、他方、自民党同志会側はアンチ久松県政、久松4選阻止に向けて動きます。両派が1961年夏に県下の遊説を行っています。その非主流派の同志会の演説会が8月21日、宇和島の公会堂であり、亀太郎は傍聴に行っています。「夜、公会堂で開催の自民同志会県政批判演説会の傍聴に行った」。

自民両派県議の泥仕合は、その後、県連会長の増原恵吉、幹事長の井原岸高

2) 今井琉璃男『愛媛県政二十年』185~189頁。

らが調停に入り、12月13日に井部の遺憾の意の表明で一応調停が成立し、一本化しています³⁾

第2章 1962年

1962年(昭和37)、亀太郎79歳の年です。本年には参議院選挙があります。県政では、来年の知事選を巡って、自民の分裂がまた起きています。亀太郎は自民党宇和島部会の支部長を続けています。

(1) 愛媛県政関係

1月6日、故郷帰りしていた第3区選出の今松治郎衆議院議員主催の懇親会があり、出席しています。「午後一時から和霊神社参籠堂における今松代議士主催の懇親会に出席した。市長、県議、市議等七、八十人の会合であって三時了って帰宅」。

2月18日には、7月予定の参議院選挙（堀本の改選）に向けて、参議院議員の堀本宜実、増原恵吉が亀太郎を訪問し、協議しています。「議会中帰県の堀本、増原両参議院議員など数名来訪」。

愛媛県の自民党県議団がまたまた分裂します。2月27日に主流派の県会自民党は秘密幹部会、議員総会を開き久松4選を決定し、同志会のうち賛同するものは参加せよと発表しました。

それに対し、3月5日、非主流派の自民党同志会は議員総会を開き、久松4選拒否、時期知事選に北条市出身で元農林次官の渡部伍良を擁立する、渡部が立たなければ井部栄治を立てると正式に決定し、一本化は消し飛んでしまいました⁴⁾

4月13日、非主流派の自民党同志会派の会合が丸水であり、亀太郎も参加しています。「五時追手丸水へ行って、中畑、藤田両県議の催にかかる同志十

3) 今井『前掲書』190～198頁。

4) 今井『前掲書』199～200頁。

名斗りの会合に出席する。県政の現状に就き報告や意見の交換があつて晚餐を共にし、予は八時辞去」。但し、亀太郎は同志会派ではないようです。

(2) 参議院選挙関係

さて、本年は第6回参議院選挙の年です（7月1日投票）。その記事がいくつか見られます。自民党からは現職の堀本宜実、社会党から県連会長で元参議院議員の三橋八次郎、共産党から井上定次郎が立候補です。分裂自民は一時休戦です。

5月5日、亀太郎は自民党宇和島支部で参議院選挙対策を協議しています。「午後三時公会堂へ行って自民党宇和島支部の役員会に出席し、参議院議員選挙対策その他の協議に与つて後、ときわで開かれた懇親会にも出て、六時半帰宅した」。

5月12日、岸信介前首相や自民党の幹部の一行が宇和島に参議院選挙の応援に来て、迎えています。「遊説と参院候補予定者応援のため、前総理大臣岸信介氏、椎名元通産相、赤城総務会長、川島国務相、本県出身増原、堀本、今松各代議士、日中金会長、豊田雅孝氏その他の大一行来宇に就き、午前十一時三十分宇和島駅へ行って地方有志一同と共に出迎え、十二時三十分からの天赦園の歓迎会にも出席した。午後三時農協連ビルに於ける中小企業連盟の豊田氏講演会（岸、椎名等の諸氏臨席）に顧問として参列、また六時から公会堂での大演説会では自民党支部長として挨拶をした。来宇の各氏皆演説し、最後に岸氏の演説があつて、盛会裏に九時半閉会、帰宅した」。

6月7日、参議院選挙の告示日です。亀太郎はこの参議院選挙にあまり活動していません。6月7日「石崎君来訪、正午同君と共に北町水口節義君方へ行って、本日参議院議員選挙告示と同時に開いた堀本宜実君の選挙事務所の会合に出席した。午後二時過帰宅、来宇の増原夫人その他二、三の来訪者があつた」、6月8日「六時和霊町谷川で参議院選全国区候補者豊田雅孝氏の事務所開設につき、自民党支部長及び中小企業連盟顧問として会合に出席した」程度です。

というのは、6月14日から7月17日まで、フランスのニースで開催のライオンズ倶楽部の国際大会に参加し、あわせてヨーロッパ旅行をしているからです。

亀太郎外遊中の7月1日、参議院選挙の投票があり、堀本が31万4,230票、三橋が27万0,211票、井上が2万6,983票で、堀本が当選しています⁵⁾

(3) 翌年の愛媛県知事選挙関係

参議院選挙のあと、県政界の中心は来年初めの知事選に移ります。7月9日、渡部は同志会から推されたものの、県選出の国会議員が結束して推してくれなければ心もとないといい、結局出馬しませんでした⁶⁾

その後、8月10日、自民党同志会・社会党・民社党・地評・愛媛全労ら5派の幹部が協議し、反久松・県政刷新会議の結成を決め、知事選の候補者の擁立をはかり、21日に保革擁立候補として愛媛新聞社長の平田陽一郎を決定し、翌日、本人に要請しています。平田は8月29日に出馬の決意をしています⁷⁾ これにより、久松と平田の一騎討ちとなりました。

さて、宇和島支部長の亀太郎の態度はどうでしょうか。

9月6日、平田候補が宇和島に来ました。亀太郎は歓迎の挨拶をしています。「六時天赦園へ行って今回知事選に立候補決意の愛媛新聞社長平田陽一郎君来宇の歓迎会に出席し、代表挨拶を述べた」。他方、9月14日に久松が宇和島に来て、亀太郎が挨拶をしています。「夕七時までに天赦園へ行って来宇の久松知事招待の宴会に出席、同氏今回自民党入党に就いて、予、支部長としての挨拶を述べた」。このように、この時は旗幟鮮明にせず、両派にエールを送っているようです。

自民党の分裂に対し、9月下旬から10月にかけて、中央の自民党幹事長の

5) 『愛媛県議会史第6巻』28頁。

6) 今井『前掲書』203～204頁。

7) 今井『前掲書』204～208頁。

前尾繁三郎と全国組織委員長の小川半次が愛媛にやって来て、久松をおろし、平田もおろして、増原を自民の統一候補にするという調整案を出しましたが、平田は立候補をやめず、結局調整はうまく行きませんでした。その後、自民党本部が平田が自民党に即時入党するなら、久松をおろして平田を公認か、推薦とするなどの最終調整まで出ましたが、平田がそれを拒否し、結局、両者の一騎打ちとなっています⁸⁾

久松が自民党公認となったため、亀太郎は平田ではなく、現職の久松を推すことを決定しました。11月5日の日記「夜六時から向新町松月旅館で清家、佐古田、宇都宮、宮本の諸県議、自民党宇和島支部の三好、中平、武田、水口の諸君と共に会し、談合の結果、一月の知事選挙は党本部公認の久松現知事を支持することに決定した」。記事中、清家（盛義）と宇都宮（光明）は北宇和郡選出の県議、宮本（専一郎）は西宇和郡選出の県議、佐古田（光義）は宇和島市選出の県議です。また、三好（金久）、中平（虎行）、武田（武）、水口（節義）はいずれも宇和島市議です。なお、宇和島市選出の県議のうち、佐古田が久松支持、他の二人（中畑義秋、藤田定吉）は平田支持です。

11月30日に松山で自民党県支部連合会の臨時総会があり、出席し、久松支援を決めています。「午前七時四十分の准急で松山へ行く。十時までに着松。直ぐ中歩町PTA会館ホールにおける自由民主党県支部連合会の臨時総会に出席した。県下各支部から四百余名参集。久松知事選候補公認の経過報告があつて積極的援助を決議し、正午過閉会した」。なお、この大会に出席した自民党の同志会が退場し、12月6日に自民党から除名されています⁹⁾

12月10日に、自民党宇和島支部の役員会を開き、久松知事支持を決めています。「午後二時自民党市支部総務、役員会（商工会議所）に出席し、知事選に対する態度決定に就き協議、予、支部長としての意見を述べた結果、公認候補の久松氏を支持することに原則として決定した」。

8) 今井『前掲書』208～214頁。

9) 今井『前掲書』215～216頁。

以降、年末、亀太郎は久松支持のために活動しています。12月19日「十時から水口節義君方へ行き、佐古田、三好、武田の諸君と会って、久松事務所をここに設けることを決めた」、24日「四時過ぎ水口節義君方へ自民党の市議会議員を集合協議するに就き、出席して挨拶をした」、28日「十時水口節義君方に会して、同君、中平、竹田の諸君と共に久松選挙事務所開きのことを協議し、和霊神社へも参詣した」等々。

第3章 1963年

1963年（昭和38）、亀太郎80歳の年です。自民党宇和島部会の支部長を続けています。

さて、本年は愛媛県知事選挙（1月26日）、県議会議員選挙（4月17日）、宇和島市長選挙（4月30日）、市議会議員選挙（同）等、一斉地方選挙の年です。更に、衆議院の解散があり、第30回総選挙（11月21日）が行われるなど、選挙一色の年です。

(1) 愛媛県知事選挙（1月26日）

愛媛県知事選挙には、自民党から現職で自民党公認の久松定武、県政刷新県民の会から愛媛新聞社長の平田陽一郎、共産党から元岡稔が出て戦われました。

亀太郎は、1月4日早々から久松定武の応援です。「午前十一時外出。信用金庫と井上晶君方へ行き、又知事選挙候補者現知事久松定武氏のために設けた自民党宇和島支部事務所の北町水口節義君方へ寄って、午後二時帰宅した」。

以降連日のように、支部長としての久松の応援です。1月5日「午後選挙事務所へ行って、集まった人々へ支部長として挨拶をした」、6日「選挙事務所へ行って佐古田君に会い、また井上政君方へ寄った上、二時から更に事務所で今日集まった人々へ挨拶をした。一旦帰宅の上、夜また選挙事務所へ行った」、7日「午前八時半選挙事務所へ行き、帰後宅用をする。…事務所へ寄っ

て八時半帰宅。…来宇中の久松知事九時過吉田町方面へ行かれる途次挨拶に来訪」, 8日「正午から公会堂へ行ってライオンズクラブの例会に出席し, 了って選挙事務所へ廻(る)」, 9日「午後三時農協事務所に於ける久松候補応援演説会に, 党本部より細田代議士等数名来宇に就き出席」, 12日「選挙事務所へ行き, 正午にはロータリー倶楽部の新年会にときわに出席して挨拶を述べた。久松候補応援演説会に東京本部から藤山前外務大臣等諸名士来宇の筈であったのが, 八幡浜以南雪のため自動車通せず, 夜八時四十分着の列車で一行一時に来着のこととなったが, 演説会は予定通り正七時から公会堂で開いた。予, 登壇。党公認の久松氏支持の筋道を強調し, 次いで佐古田, 松尾, 宇都宮の三県議がつないだ後, 毛利, 菅の両代議士, 遠来の藤原あき, 藤山愛一郎, 三木武夫の諸代議士夫れぞれ熱弁を振うて, 十時過ぎ盛会裏に閉会した」, 14日「五時事務所から自動車で草野君と共に務田堀切まで行って, 鬼北三間郷經由来宇の筈の久松候補を待ち, 雪の道を廻って来た候補者乗込の宣伝車と会って, 共に宇和島事務所へ帰った。六時半から開会の立会演説会に公会堂へ久松氏と同車で行き, 超満員の聴衆であったが, 平田陽一郎, 久松定武両候補の分を聴いて後, 予は土居君方へ寄って十時半帰宅した」, 19日「午後久保田書店へ行ってから選挙事務所へ行き, 一時過和霊神社参籠所の久松候補応援演説会場へ詰めた。既に聴衆満員であったが, 二時から開会。本日来宇の前総理大臣岸信介代議士, 田中伊三次, 久松夫人等諸名士の演説会があつて, 三時半終わり, 岸氏等は直ぐ駅へ出て帰京。予は事務所へ帰った」。

1月25日, 投票の前日です。「明日の投票日を扣へ, 天候を気遣われるが, 当地形勢は最初中畑と藤田両県議と社会党の加勢する平田候補が優勢と見えしも, 佐古田県議, 三好市議を中心とした保守正統派の努力で順次盛返し, 今では互角, 県下全体を通じては久松候補断然優勢と見られるに至った」。

1月26日, 投票日です。久松が33万0,398票, 平田が32万5,986票, 元岡が1万2,769票で, わずか4,412票の僅差でしたが, 久松がまた当選です。4選目です。「知事選挙の当日だから, 午前中に和霊小学校の投票所へ行って

投票をした。妻、春雄、達子も皆行く。午後宅用をして、四時から選挙事務所へ行った。市内各投票所雪のため有権者の出足鈍ったが、六時のメ切までに投票率七十二パーセントを数え、県下全体としては七十五パーセント三八の好成績である。七時帰宅。テレビとラジオの開票速報で、八時以後の総合得点数発表を知ったが、久松優勢を続けて十二時で当選確実となり、結局夜半過ぎて久松定武三三〇、三九八票、平田陽一郎三二五、九八六票、共産党候補者少数で久松現知事の当選を見た。四千四百票の僅差ながら、久松氏の四選が実現した訳である」。

激しい選挙戦を反映して、実弾が飛び、選挙違反者が続出しています。県下で687人、自民党幹事長白石春樹や平田派の川口満義、宇都宮光明らの有力県議が検挙されています¹⁰⁾

宇和島でも、選挙違反者が検挙され、亀太郎は陣営の検挙者に差し入れをしています。2月18日「柿原刑務所付近の差入屋へ行って、選挙違反の連中へ差入をした」。

2月15日に、自民党宇和島支部の総会が行われ、亀太郎が引き続き支部長に就任しています。「午後二時商工会議所二階で自由民主党宇和島支部の総会を開き出席。前田市議会議長を座長として議事を進めた。役員選の結果、大体全部再選し、予も重ねて支部長となった。閉会后出席者三十余名で宴会に移り、五時半帰宅した」。

(2) 県会議員選挙（4月17日）

第4次久松県政発足後の最初の第5回県会議員選挙が4月1日告示され、17日投票日です。議席53で、77人が立候補しています。知事選で平田陣営の中

10) 『愛媛県議会史第6巻』31頁。愛媛の財界は久松に献金した。住友化学・住友機械・住友共電、住友金属鉱山別子鉱業所から300万円、奥道後国際観光開発社長坪内寿夫から200万円、野間工務店から200万円、伊予銀行から100万円、今治タオル業界から100万円、伊予鉄道から50万円、井関農機から50万円、愛媛相互銀行から50万円等々。また同じ位の金額が平田陣営にもいっており、総額1億円位知事選で動いたと言われている（今井『前掲書』219～220頁）。

心人物、井部栄治は出馬せず、第1戦を退いています。宇和島選挙区(2議席)では、自民党から佐子田光義(現)、無所属から中畑義秋(現、元自民同志会)、社会党から国村三郎(新)が出ました。なお、現職の藤田定吉は市長選立候補のため、出ていません。

3月9日に中畑義秋が亀太郎に支援要請に来ています。「午前中畑義秋君来訪。県議選立候補に就き、推薦者名義の依頼を受けた」。

亀太郎は中畑ではなく、佐子田光義支援です。4月2日「三時朝日町の県議候補者佐古田光義君選挙事務所へ行って、自民党支部長として今日の事務所開きに参集の人々へ対し挨拶をした。夕方今一度事務所へ行って佐子田君に会った」、4月8日「五時佐子田選挙事務所を訪うた」、4月9日「四時佐古田選挙事務所へ行き、楨本君方へ寄って六時過帰った」、4月10日「午前佐古田選挙事務所へ行きなどし、午後土居君を訪うた」、4月11日「佐古田事務所を訪うた。午後一寸土居君を訪うて、夕方再び佐古田へ又中畑選挙事務所へ行き、夜三瀬君方へ行った」、4月12日「午前佐古田選挙事務所へ行き、来援の久松知事に会った」、4月13日「佐古田事務所へ寄って午後二時帰った」等々。

4月17日が投票日です。亀太郎が応援した佐古田は次点で落選しています。「県議会議員選挙の当日なので、午前和霊小学校の投票所へ行って投票し、佐古田事務所へも行った。…夕方から再び選挙事務所へ行き、六時締切後の開票率八四、五パーセントで三候補者中、中畑リード、佐古田、国村は互角との情報のみで実数出ず、八時半帰宅した。夜半十一時過ぎて判明、中畑義秋君一二、一六五票、社会党の国村三郎君一一、二七五票で当選し、佐古田君一〇、四八六票と僅差を以て惜敗落選した」。

翌4月18日に佐古田を慰問しています。「午前佐古田君を柿原の宅を訪うて慰問し、共に朝日町の事務所まで出て、予は十一時帰宅した」。

愛媛県全体の選挙結果は自民27、社会8、民社2、公政連1、無所属15(保守系11、革新系4)でした。自民党の有力幹部の落選、若返り等が特徴でした¹¹⁾

11) 今井『前掲書』221～222頁。『愛媛県議会史第6巻』720～722頁。

(3) 宇和島市長選挙・市会議員選挙（4月30日）

4月30日に宇和島市長選挙が予定されています。

県議の藤田定吉（自民党同志会のメンバー）が、県議の立候補を辞めて、市長選挙に鞍替えです。藤田は3月3日に亀太郎に立候補の挨拶に来ています。「藤田定吉君県議をやめて、四月市長選に立候補を決意した由でその挨拶に来訪」。

他方、現職の中川千代治も再選を期します。支援者が亀太郎宅を訪問です。亀太郎の態度は不明ですが、現職支持と思われます。3月8日の日記に「宅に福井千代吉君来訪。中川現市長推挙に就き話があった。午後土居通知君来訪。同じ趣旨の話があって、あとで碁を打った。夜、石崎要範君来訪。藤田候補推薦の署名依頼があったが、引受けなかった」とあります。

亀太郎は市長選挙には特に運動はしていません。両候補の選挙事務所を訪問している程度です。4月25日「市長選挙に立候補の藤田定吉前県議，中川千代治現市長の各選挙事務所をそれぞれ訪問した」。

4月30日が市長選の投票日です。「市長，市議会議員選挙の当日なので，午後四時和霊小学校の投票所へ行って投票をし，帰後会社に六時まで出勤した」。

5月1日が開票日です。中川が再選となりました。「宇和島市長選挙開票の結果は，正午までに判明し，現市長中川千代治君一九，七二四票を以て当選，再任確定となり，藤田君は一七，二五〇票で次点となった」。

なお，同日行われた宇和島市会議員選挙について，亀太郎は「市議会議員の開票は午後得点が順次発表され三時過ぎには当落判明した。中平虎行君が最高得点で現議員二十三名，新人七名の当選を見，婦人議員二名，岩井信福君等が落選した。諸方へ祝電を発しなどする」（5月1日）と記しています。

市会議員選挙では相変わらず選挙違反があり，中平虎行，田中信明等が検挙されています。5月17日「差入屋へ行って選挙違反で留置されている田中信明，竹田近市，水口節義，中平虎行の諸君へ差入をした」。このうち，中平，田中は辞職しています。

市長選挙・市議員選挙のあと、自民党宇和島支部の幹事長の三好金久が辞任を表明したりして、少し混乱があったようです。6月13日「正午ときわへ行って三好金久、竹田近市、藤原忠男の諸君と会合。三好君の自民党支部幹事長辞任撤回のことを要請し、承諾を得た」、14日「午後井上督重君来訪。また井上晶君来訪。外に中平虎行君五時過に来訪。自民党役員の件で話をつけた」、7月13日「三時から公会堂会議室に自民党宇和島支部の役員会を開き出席の上、各役員留任、党勢強化の件を再確認させた。終わってときわで夕食を一同共にした」等々。

(4) 衆議院議員選挙 (11月21日)

前回の総選挙(1960年11月)から3年がたち、総選挙ムードとなり、池田内閣は10月23日衆議院を解散しました。解散の日に、亀太郎は自民党宇和島支部の役員会を開き、現職の今松治郎を推薦する事を決めています。「午後一時から公会堂の特別室で自民党宇和島支部の役員会を開き、三好幹事長以下総務等十数名会合。予より意見を述べて本日の衆議院解散により十一月二十一日に行われる総選挙には主として今松候補を支持することに態度一決した。三時過ぎ閉会。引き続き松月旅館で一同夕食を共にした」。

そして、10月29日に帰国した今松代議士を出迎えています。「午後一時五十分駅へ行って、議会解散後選挙区入する今松代議士を迎へ、駅頭で自民党支部長としての挨拶を述べた」。30日には、今松派の運動員と会合です。「今松候補の選挙事務所にあてる堀端のミカド跡へ行って前田君と会い、共に蔦屋へ行って郡部から招集の今松派有志三十人ばかりの席に臨み、挨拶をした。正午帰宅。午後今松君挨拶廻り来訪」。

第30回衆議院選挙は、10月31日が公示、11月21日が投票です。愛媛県の1区(定員3)では、自民党は2人(現職の関谷勝利と菅太郎)を立て、他方社会党が1人(現職の湯山勇)、民社党が1人(元職の中村時雄)、共産党が1人(新人の井上定次郎)立てました。2区(定員3)では自民党が3人(現職

の八木徹雄と井原岸高，元職の村瀬宣親），社会党が2人（新人の藤田高敏と曾我部正雄）を立て（現職の安平鹿一は病気で辞退），共産党が1人（新人の元岡稔）立てました。亀太郎の属する3区（定員3）では，自民党が3人（現職の毛利松平，今松治郎，高橋英吉），社会党が1人（元職の井谷正吉），共産党が1人（新人の島田学），無所属から1人（新人の阿部喜元）が出ました¹²⁾

以降，亀太郎は今松の応援をよくしています。10月31日「今松候補選挙事務所の開所祝に出席して挨拶を述べた」，11月1日「午後外出。信金，岡三，今松選挙事務所へ行って三時帰宅した」，8日「午後今松選挙事務所へ行き，今松候補と共に市中宣伝車に乗って廻り，二，三回街頭に立った。夜七時から公会堂へ行って，公営立会演説会に入場し，毛利，高橋，井谷，阿部，今松等全六候補者の政見を聴いた。一旦事務所へ寄って十時帰宅」，10日「九時半竹田近市君を訪い，十一時から今松選挙事務所へ寄った」，12日「七時今松選挙事務所に帰って九島の国応に出張。今松個人演説会の会場小学校講堂で候補者と共に演説をした」。

11月15日には岸元総理を迎え，また演説もしています。「六時四十三分宇和島駅へ到着の前総理大臣岸信介氏の一行三人を今松選挙事務所の人々と共に出迎へ，駅頭で歓迎の辞を述べた。次で自動車を連ねて市中を行進し蔦屋旅館に入ったが，予等はやがて七時から公会堂で開かれている今松候補個人演説会に出席し，八時過予は二十五分間応援演説をした。聴衆満堂緊張の場面を続け，岸氏の演説の終わったのは十時半であった」。

11月19日にも郡部に出かけ，応援演説です。「午前八時から選挙事務所へ行き，今松候補，三好金久君と共に市中を宣伝車で廻り，所々で街頭演説をした。…夜六時から今松夫妻等と同乗して松野町へ出張し，予は七時半から吉野劇場で開催の今松個人演説会に応援演説をして次の会場松丸の松野町役場へ廻り，九時半から演説をした」。

11月21日投票日です。「衆議院議員選挙の日である。午前中和霊小学校の

12)『愛媛県議会史 第6巻』722頁。

投票を済ませ今松の事務所へ行った。…開票の結果は夜十時頃から順次判りはじめ、夜半三時には当選が確定的となった。第三区得票は五〇、五五八票毛利松平（自民前）、四九、八六二票今松治郎（自民前）、四九、七二七票井谷正吉（社会元）で、自民党二名、社会党一名の当選を見、四五、五九七票の高橋英吉が次点となった。最初の形勢を盛り返して地元代表今松の進出は目ざましかった」。

愛媛県の選挙結果は、1区では関谷（自民）、中村（民社）、湯山（社会）が当選し、現職の菅（自民）が落選しました。2区では藤田（社会）、八木（自民）、井原（自民）が当選し、村瀬（自民）、曾我部（社会）らが落選しました。3区では、毛利（自民）、今松（自民）、井谷（社会）が当選し、現職の高橋（自民）が落選しました（高橋は平田支持であったためと言われている）。結果は自民5、社会3、民社1で、自民の後退でした。全国的には自民283、社会144、民社23、共産5、諸派・無所属12で、自民が解散議席（286）を若干減らしたものの、引き続き安定多数を確保したのでした¹³⁾。

第4章 1964年

1964年（昭和39）、亀太郎81歳の年です。政治は安定期に入っています。オリンピックの年でもあります。

亀太郎は自民党宇和島支部の支部長を長らく続けていましたが、2月下旬辞意を表明しています。2月27日「三時半松月旅館に於ける自民党宇和島支部の総務会に出席した。三月の総会での役員改選で予の支部長もやめたき旨申出で、置いた。宴会あって六時半帰宅」。そして、3月16日に宇和島支部の大会があり、支部長の辞任が認められ、顧問に就任です。「午後一時から農協会館で開催の自由民主党宇和島支部大会に出席。帰省の今松代議士も列席して議事に入り、決議宣言の後、役員改選の結果、予の支部長は辞退して顧問となり、従来幹事長の三好金久君が支部長となった」。

13) 『議会制度百年史』712頁。

7月17日、池田内閣の北海道開発長官に増原恵吉が就任し、7月25日にお国入りし、歓迎会を開いています。「午前十時公会堂へ行って、昨夜郷土入りした国務大臣増原恵吉氏の歓迎会に出席した。ステージで挨拶し、宴会にも列したが、十一時閉会」。

この年、学力テストを巡る政争が起きています。全国学力テストは1956年（昭和31）から抽出により実施されていましたが、その後次第に拡大し、全国的な問題に発展していました。愛媛では、59年に文部省からの抽出校の外に希望校が次第に拡大し、61年にはほぼ全県下で行われていました。それは、勤務評定と密接な関係があり、勤評の物差しとして、学テが使用されたためでした。その結果、愛媛の学テは1963年に小学校で全国2位、64年には小学6年生で全国1位となっています。この学テに対し、県教組が6月機関紙「愛媛の教育」で学テ不正の実態を暴露し、また、東大教授宗像誠也を団長とする調査団が愛媛入りし、学テ調査を行い、6月9日「不正あり」と発表したのに対し、愛教研、県小中学校長会が発表を否定し、そして、カチンときた自民党が政治問題化させています。6月24日、自民党は幹事長白石春樹の名で、県下の小中学校の全教員に学テの不正の事実の有無を○×で回答させるアンケート調査を強行し、多くの教員が踏み絵を踏まされています。6月30日の県議会でこの白石アンケートが問題とされ、自民党側が白石アンケートを擁護したのに対し、社会党側が批判し、社会党の岡本博県議が、64年度の学テに関し、松山市と重信町のある小学校で不正があったと校名をあげて暴露しています。その後この岡本発言をめぐって、政争が沸騰し、岡本が告訴されるまでになっています¹⁴⁾

この様な、騒然たる時期の8月4日、宇和島で愛媛県教育推進大会宇和島区大会があり、亀太郎も出席しています。日記に「午後一時公会堂へ行って、県教育推進大会宇和島区大会に出席した。県議白石、松尾、宇都宮等の数氏、今松、毛利、両代議士臨席。宣言決議などあって三時半閉会、帰宅した」。

14) 島津豊幸『愛媛の百年』322～331頁。

10月10日から東京オリンピックがあり（～24日）、亀太郎は20日上京の道につき、21日から24日にかけても観戦しています。24日の閉会日の日記を示しておきます。「午前九時過から代々木の国立競技場へ行って、大賞典障害飛越馬術の競技を観た。十一時ここを出て東京駅で少々買物の上、一旦帰宿。午后再び外出。…三時また競技場に入って馬術を観た。決勝決定表彰が了って引き続きオリンピックの閉会式に移った。四時五十九分場内整頓成り開式、両陛下、皇太子殿下御夫妻等の諸皇族臨御、観衆七万、満員裏に参加九十四ヶ国の国旗がそれぞれの旗手によって入場し、次で選手七千人続々入場。壯観且なごやかな光景を呈した。会長の閉会宣言があつて場内電灯消え、聖火、徐ろに消滅して太陽に帰った一瞬は感激極まる場面であつた。奏樂の螢の光、次はメキシコでの電気文字、炬火行列で場内明るくなり、選手退場で全く式を了つたのは六時二十分頃であつた。色花火の打揚があつて、予は六時三十分場外へ出て、人混みの中を千駄ヶ谷駅から乗車、東京駅へ帰った」。

オリンピック終了後の10月25日、病氣療養中であつた池田首相が辞意を表明し、後継に佐藤栄作を指名し、11月9日佐藤栄作が首相に就任しています。11月9日「佐藤内閣成立の報あり」。以降、7年8ヵ月にわたる長期政権が続きます。

第5章 1965年

1965年（昭和40）、亀太郎82歳の年です。経済面では、「65年不況」の時期です。中央の政権は佐藤栄作が担当しています。本年7月には参議院選挙がありました。それ以外に政治関係の記事はあまりありません。

2月1日、民社党の委員長の西尾末広と同党の参議院候補者が来宇し、市長を訪問、亀太郎も会っています。「午後二時市役所市長室で中川市長と共に、先刻来宇来訪の民主社会党中央執行委員長西尾末広及び同党から参院立候補予定の中野源二郎両氏に会うた」。

3月14日に、自民党県連の大会があり、役員を改選し、会長に今松治郎（衆

議院議員)、幹事長に宇都宮光明(県議)を選出、長年幹事長を務めた白石春樹は他の国会議員等とともに常任顧問となっています¹⁵⁾

4月25日には、自民党宇和島支部の定期大会があり、出席しています。「午後一時から農協会館に於ける自民党宇和島支部の定期大会に出席し、来賓祝辞を述べた。二時から増原、今松両代議士、久松県知事も南郡から帰って列席。祝辞や宣言決議があった。次で今松君県連会長就任の祝賀会を催し、四時過散会」。

さて、第7回参議院選挙です。6月10日が公示、7月4日が投票です。自民党は現職の増原恵吉を、社会党は女性の渡辺道子を、共産党は井上定次郎を立てました。

以降、増原候補のために応援しています。6月14日「午後参議院議員選挙が告示されて、自民党支部の増原恵吉君選挙事務所が北町水口君方に設けられているので顔を出し、増原夫人に会うた」、16日「帰省中の今松代議士を賀古町の木公会事務所に訪い、次で北町の増原選挙事務所へ行った。午後一時から護国神社参籠所に於ける自民党の時局講演会に列席した。来宇の草野、小淵両代議士の時局談と青年部結成協議があり、四時大体終了」、17日「留守中宅へ参議院議員豊田雅孝氏来訪」、18日「午後参院全国区候補者金丸富夫氏の夫人、日通の関係者三人と共に来訪」、6月29日「十時から外出。選挙事務所へ行き増原候補応援の婦人部に挨拶した」。6月30日～7月3日毎日、増原選挙事務所へ行っています。

7月4日参議院選挙の投票日です。増原当選です。「参議院選挙の当日で、午前中に和霊小学校の投票所へ行って投票を済ませ、大池下埋立地の現場を視た。…六時増原選挙事務所へ行く。市郡共、投票率が予想以上によいので保守政党の得票好転が考へられ、喜色があった。八時過に帰ったが、その後、県下各地の開票結果が順次伝えられ、増原候補が社会党の渡辺候補を大きく引離して当選が確定した」。

15) 今井『前掲書』233頁。

翌7月5日得票数が判明しました。「朝、増原氏得票は三十三万〇三百九十九票で、次点渡辺とは六万票の大差で当選と判った」。7月6日、増原恵吉が挨拶に来ています。「参院全国区開票で金丸富夫氏も当選と判った。…午前中一、二訪人があり、当選の増原恵吉氏夫妻、挨拶に来訪」。

全国の参議院選挙の結果は、自民党71、社会党36、公明党11、民社党3、共産党3、無所属3でした。改選前に比し、自民党がやや後退し、社会・公明が進出しています¹⁶⁾

16) 『議会制度百年史 院内会派編 貴族院 参議院の部』398～402頁。